

わだち ～ 輪を大切に、仲間を大事に～

少しずつ着実に進む

自分に与えられた夏休みの45日間。「あれも、これも・・・」と、やりたいこと、やるべきことは頭に思い描くものの終わってみれば、できていないことが山のようにある・・・㊦という8月31日を、森は今までに何度も過ごしてきました。その中で、少しでも自分を変えたいと思い、読んだ本が「カエルは早く食べろ！」でした。

< 以下、本の内容の一部を紹介します >

“道のりは遠くても、少しずつ進めばなんてことはない！”

目の前にある大きな出来事の全体を見るのではなく、すぐに実行可能な1つの行動に集中すれば、先延ばしをせずに進む。「千里の道も一歩から」というのは老子の言葉だが、グズグズせずに多くのことを手際よく成し遂げるのにぴったりな戦略でもある。

その昔、アルジェリアの奥地、サハラ砂漠の中心部に位置するタネズルフトという地域を、くたびれたランドローバー(四輪駆動車)で横断した。500マイル【約800キロ:西なら徳島県から鹿児島県を過ぎてさらに先、東なら東京を越えてさらに東北の手前までの距離】にわたって水・食べ物はおろか、草の葉1枚、ハエ1匹見当たらない。

このサハラ砂漠の中心部を横断しようとして、過去に1300人を超える人が命を落としていた。風で舞う砂のせいで砂漠には轍が残らず、夜になって道に迷った旅人は生きては帰れない。

そこで、こののっぺらぼうな土地に目印をつけるため、フランス人たちは黒いドラム缶を5キロごとに配置した。これは、地球の曲率から計算される地平線までの距離だ。

おかげで私たちは、昼間には常に2つのドラム缶を視野に捉えることができた。1つのドラム缶にたどり着くと、もう1つが5キロ先に見える。2つのドラム缶が見えていることは、道に迷っていないことの証でもある。だから私たちは、ただひたすら次のドラム缶を目指して進むだけでよかった。1つひとつドラム缶をたどっていくだけで、最後には世界最大の砂漠を横断することができた。

これと同じで、自分を律して1歩ずつ着実に前に進めば、あなたは最も大きな目標を達成できる。やるべきことは、その時点で見えている目印の場所まで進むこと。そこまで行けば、またその先に視界が開けてくる。“1歩ずつ進もう”

『たとえ目立った能力がない人でも、1つのことに全身全霊を傾けて絶え間なく努力を続ければ、大きな成果を挙げることができる』

— サミュエル・スマイルズ —

(「カエルは早く食べろ！」ブライアン・トレーシー 著 より)

なぜ自分がやるべきことができずに時間が過ぎてしまうのかを考えさせられる本でした。自分の中で一番大事なことからまずはやっつけていくことが、物事を成し遂げるためには重要であることに気づきました。あまり重要ではないこと、どうでもいいことばかりに時間を取られていると、一番大事なことにかける時間が足りなくなります。まずは、自分にとって一番大事なことを先延ばしにせずに、真っ先に取りかかる習慣を身につけていきましょう。

さて、あなたにとって大事なことを3つ挙げてみてください。

猛暑の中での夏休みの部活動を終えて

今年の夏も熱中症警戒アラートを気かけながらの活動になりました。初めての夏休みの部活動はどうでした？

開始時間が早くて起きるのが大変だった、とにかく暑かった、練習に来たらそのまま中止になった等、色んな経験をしたことでしょう。まずは、夏休みの部活動に休まずに参加できた人、この夏をよく乗り切りました。この経験は、あなたをひと回り大きくしています。よく頑張りました。

だからこそ、ここからもう1歩前へ！まだまだ1年生だからなんて思いは捨てましょう。【何事も始まれば必ず終わる】最後のときをどんな気持ちで終える自分でありたいのかをイメージしながら、9月からの活動に全力で取り組んでみましょう。

【9月の予定】

日	曜	行事予定	日課	給食
1	火	①始業式②学活③学活④月4⑤月5 避難訓練 放課14:20(予定) 職員会議	(45)	○
2	水	①～⑤課題テスト 生徒会専門委員会		○
3	木		(45)	○
4	金		(45)	○
5	土			
6	日			
7	月	⑥なし 学級役員任命	(45)	○
8	火		(45)	○
9	水	⑤木5 ⑥なし	(45)	○
10	木	⑤⑥総(文化祭前日準備13:20～)	(45)	○
11	金	城西祭(文化の部) 片付け13:25～		弁当
12	土			
13	日			
14	月	⑥火5		○
15	火			○
16	水			○
17	木	職員会議		○
18	金	学校安全の日		○
19	土			
20	日			
21	月	敬老の日		
22	火	国民の休日		
23	水	秋分の日		
24	木	⑥金6		○
25	金	⑥なし 英検	(45)	○
26	土			
27	日			
28	月	⑥なし 生徒専門委員会		○
29	火			○
30	水			○

【10月の予定】

2日(金)	出前授業【地域を支える防災、建設業従事者からのメッセージ】
7日(木)	1年英語能力判定テスト
19日(月)、20日(火)	中間テスト
26日(月)	お弁当の日
29日(木)	②③オープンスクール④ユニセフキャラバン授業

◇ 保護者の皆さまへ

厳しい暑さのなか、三者面談にお越しいただき、ありがとうございました。

お子さまの学校の様子(頑張りなど)をお伝えし、2学期に向けて頑張ってもらいたいことなど、4カ月一緒に過ごした担任からの想いをお話させていただきました。

思春期を迎えるこの時期のお子さまは、自分の気持ちとは裏腹な言動や行動をとってしまうこともあり、お困りのことが出てくるかもしれません。そんなときに、家庭(保護者)、学校(先生)が連携して、たくさんの大人の関わりを通して、お子さまの成長をサポートしていければと考えております。2学期もどうぞよろしくお願いいたします。

防災についての学習を深めていこう

城西中学校の1年生では、防災に対する様々な学びを深めていこうと考えています。

そこで、8月3日(月)の登校日に2011年3月11日の東日本大震災での出来事について映像を観ながら、震災(津波)や災害がどのようなものかを知り、自分にできることは何なのかを考えてもらいました。

「釜石の奇跡」とも呼ばれるこの出来事について紹介します。

【震災当日の流れ】

1. 地震発生

2011年3月11日午後2時46分、東日本大震災が発生しました。

鵜住居(うのすまい)小学校と釜石東中学校は大槌湾に近い低地にあり、大津波の危険にさらされていました。

2. 中学生が最初に動く

釜石東中学校では、生徒たちが「津波が来る」と判断し、校庭へ出て高台への避難を開始しました。停電で校内放送が使えない状況でしたが、生徒たちは自主的に行動しました。

3. 小学生も続く

隣接する鵜住居小学校では、当初、児童は校舎3階へ避難していました。しかし、中学生が避難する姿を見て、児童や教員は高台への避難を始めました。

4. 避難場所を変え続ける

子どもたちは最初の避難場所である「ございしょの里」に到着しました。しかし、

・崖崩れの危険が見えた

・津波が予想以上に大きい可能性があった

ため、さらに高い場所へ移動しました。その後も消防団員や地域住民の声を受けて、さらに高い避難場所へ移動しました。結果として学校周辺は津波に飲み込まれましたが、児童・生徒全員が助かりました。

これは、釜石の子どもたちが次の「避難三原則」を学んでいたからだと考えられています。

①想定にとらわれない

②その状況で最善を尽くす

③率先して避難する人になる(率先避難者)

近年、関係者の間では「奇跡」というよりも、継続的な防災教育と訓練の成果であり、「釜石の出来事」と呼ぶべきだという考え方もあります。

あれから15年後、2026年7月28日午後4時27分に熊本地方にて震度7の大きな地震が発生しました。熊本地方に大きな被害が出るなか、地震発生から約1時間20分後にショッピングモールでの爆発が起きました。お客さんと従業員合わせて約4500人の避難が30分ほどで行われていたことは、「奇跡的」と言われています。しかし、その後店内に戻った従業員が爆発に巻き込まれました。

この爆発事故からの教訓として

①戻らないルール

②情報共有の必要性

について改めて考えていく必要があるとされています。

また、猛暑日が続く7月に、停電や断水による二次災害は避けることができず、被災地の方々の生活が復旧するまでにはどれくらいの時間がかかるのか想像もつかない状況です。

災害は、いつ・どこで・起こるか誰にもわかりません。その上で、“私たちにできることは何か”をしっかりと考えて、ひとつでも行動に移すことができるように、これから一緒に学び、取り組んでいきましょう。

「釜石の奇跡」を観ての感想

みんなが今回の学習を通して、どんなことを感じ、どんなことを考えたのか、いくつかの感想を紹介します。

◎自分は助かる、自分は死なない、などの考えは予想に過ぎないことと遠いから無事(安心)というわけじゃないことが分かりました。私も、大人に頼るだけでなく、よりよい決断ができるようにしたいと思います。地震は恐いけれど、まずは命を守り、想定にとらわれなく、避難していこうと思いました。

◎小学生の子が家族を説得して避難できたことがすごいと思う。事前に打ち合わせして避難経路を確認しておきたい。私も「津波てんでんこ」を見習って家族に伝えておこうと思う。私は平日、家にひとりであることもあり、事前に家族と相談して、地震が来たら真っ先に逃げたいと思う。また、家にいる犬を避難時にどうするのかも考えたい。

◎震災の映像は見たことはあったが、今日のエピソードみたいに実際にどのような行動を起こしたのかは知らなかった。“奇跡”とつけられているくらい本当にすごい行動だった。エピソードの中で、親は大丈夫か心配していた人もいたけど、自分で考えて行動していた小学生はとても立派だなと思った。授業で観たことが避難にも役立ったと言っていたので、そういう授業はもしもの命を守るために大切だと感じた。

◎自分たちの行動で多くの人たちの命を救った釜石の小学生はすごいと思った。「津波から命を守る避難三原則」を頭に入れておいて、もし地震や津波が起きたら行動できるようにする!!

改めて避難訓練の大切さを実感した。これから30年以内に徳島でも大きな地震が起こる可能性が高いから、今日学んだことを生かしたい!!

◎津波がとても恐いことが改めてわかったし、子どもたちの判断で命を守ることができたのがすごいと思った。地震はいつ起こるかわからないし、今起きてもおかしくない状況でどう行動できるかが大切だと思った。また、日頃からの備えや避難経路などを確認するのも大事だと思った。徳島にもいつ起きるかわからない。南海トラフや津波がいつかやってくることを忘れずに、日頃からの避難訓練や命を守る避難三原則を大切にしていきたい。

◎今日観た動画で「自分の命は自分で守れ」という言葉が心に響きました。家族を信じて、まずは自分の命を守るということを心がけようと思いました。ハザードマップは徳島市にもありますが、それにとらわれずに大きな地震が来たら、色んなことを想定し、避難しようと思いました。普段から防災への訓練のしていき、「臨機応変」に行動できるようにしようと思います。

みなさんが感じたこと、考えたことはとっても大切な学びです。

知識として学んだことを、実際の行動につなげることができるよう今後もみんなで一生懸命に取り組んでいきましょう。

9月1日には避難訓練を実施します。訓練の中でも、いまの学びを実践できたらすばらしいですね。